

911.1
子

千鳥子

Handwritten text in a vertical column, possibly a date or name, written in dark ink.

Handwritten text in a vertical column, possibly a date or name, written in dark ink.



歌はしとさう紫うきをひ出た
を伊知くをとあ歌へし
未とんふ人書と海の内さうの如く
まわのあふ海地よとせん書とと東
さうとたさんふのあはし
書もとせんやはと東とと
あふのうとふあふひと海のとと
せん伊とあさういさく汗あ海と

日作を歌へし
久世乃二書ととふつ法とと
とと如ふと海地と風と伊ととあふ
とと海地と東の法とと
あふとととと又伊の法とと
とととととととととととととと
あふとととととととととととととと
ととととととととととととととと

小書はたゞいづて名おほきを言ふに
 こそあるまゝのらちなるの跡さうを
 婦こころありし處の法おほく和歌を
 備へしはあはれめしたまひしなるむ
 糸し此跡をよみ給ふかしくこしと
 小中歌の心すしははたかたなりし
 ちふ備へしはたかたなりしはたか
 の跡は跡を言ふ言ふ言ふ言ふ言ふ
 なる川をたかたかたさうしおとそ
 なるふあはれおほくはたかた
 くるまのしはたかたなりしはたか
 何あはれと与法しあはれ

多々良定賢書

小名乃記目錄

兼題書牋 一丁

加進燈冊に撮 三丁 同地番名あり

詠草書牋 三丁

監詠草圖 三丁 折紙系圖 同上

懷紙書牋 四丁

一頁懷紙圖 四丁

懷紙裏書の字 六丁

懷紙空摺の字 七丁

懷紙未配の事 八丁

位者書の事 九丁

佛字遊覧の懷紙の事 十丁

同様の會懷紙乃事 十一丁 下巻の會懷紙の事 同上

主権の巻 廿丁オ

詩懐成巻 廿丁オ

日法 廿丁オ

同 廿丁オ

二首懐成巻 廿丁オ

五首懐成巻 廿丁オ

十首懐成巻 廿丁オ

短冊書辨 廿丁オ

一字題短冊 廿丁オ

短冊に姓名をとり 廿丁オ

句の句題短冊 廿丁オ

短冊に詞書をとり 廿丁オ

短冊の肩に注をとり 廿丁オ

款金の短冊を振 廿丁オ

女房短冊 廿丁オ

信使の懐成巻 廿丁オ

女房懐成巻 廿丁オ

同 二首懐成巻 廿丁オ

三首懐成巻 廿丁オ

七首懐成巻 廿丁オ

十首懐成巻 廿丁オ

二字題 四字題短冊 廿丁オ

句題短冊 廿丁オ

詞書をとり 廿丁オ

掛わけ短冊 廿丁オ

短冊の上の字 廿丁オ

代筆の短冊 廿丁オ

詩を短冊 廿丁オ

附尾

幾句短冊 廿丁オ

懐紙書振の後 廿丁オ

不系の懐紙を振の後 廿丁オ

短冊を振の後 廿丁オ

短冊上句下句の 廿丁オ

款金の圖 廿丁オ

かみ又し圖字の後 廿丁オ

佳節懐紙端他の後 同

子あしく所白を小ま 廿丁オ

懐紙端他真字の 廿丁オ

名紙短冊すけの後 廿丁オ

名簿の圖 廿丁オ

より乃のりぞたえつふえ、意のこゝ
きいんえいんくくくくくくくくくく
ぬゆくぬゆくぬゆくぬゆくぬゆく
乃をらねとく子あるいーほふ
中取もてる中後親海ゆーその
意強きて志きーたふさく懐紙
あふあふあふあふあふあふあふあふ

ーそのかことさあうりーそふあ
のゆと号らぬる舞よおのれよま
くうてふこころぬと書屋の老翁の
いひつをれぬハ今あふいひさ
まもあふされたひひさうえ
そらうらうらまねがらそらうら
そらうらうらまねがらそらうら

何ぞはらのまを〜
あう〜
とあ〜
よら〜
るる〜
月か〜

大石千引

千巻のあや

美濃 中臣親満 著

歌乃懐紙と云はれん清和乃御時よりありと和歌物語より
いひしと定るをうし短冊と云名ハ日本紀始ては歌書
あり枕草紙白記をよみありと今の振と同し死や志し
片後多不致今扱は後宇多院乃御製をよみし衣輪乃
短冊を世に傳ふをいひ彼御世より今れやくいひるあり
らん中務卿尊良親王乃侍子乃御息所乃家乃會し歌を短冊
に記しあり又ハ等持院將軍尊氏の褒貶の短冊は
意大平記よりんるべし其項とや感ふ世よりそをせ

心を一にば見く能見づくは書法とわくは定まり有て
 歌をむ人乃志らぐえあるは事ごとををりかたは
 年頃あはれ見むのり古入乃真蹟をむとらぬ瀉
 或ハ縣居翁より後法むぐ乃先達乃とれうのをも
 かいまむ。目やをのらんかためふ類をいつらて
 その子めとてくるをれをいとりをせはよそ

○兼題書體

凡和歌會を催さんとてハ善題と絶えらるるを以て
 その題乃書法五首十首廿首おぐハ短冊一枚ハ二行又ハ
 三行おととてむるなり廿首より多きは短冊不及い
 たり短冊ハ三行ハ折二折の内ハ題を書よ一折ハ左
 右ハ分る會日と亭主乃名を書也

松雪

一首題ハ折見
もくやじ

本二日
基定亭

梅乃佳色

字橋玄

本十六日
行之亭

歳暮

河上御

本五日

冬月

竹青原

本十日

又折二題つ

あつらひあり

三首ハ三行ハ六句
五首七首十首廿首
おとく一紙より

基定亭

本十日

右乃如く書く。三折。短冊は依て杉原亦く上包
 をとく出以て。近世勸進乃短冊上包。何懐舊何
 月某日取重たのぐく。更尔無稽乃至。上包
 と白紙尔く出さる。他者よ名と書いべきたるなり。

源義隆

わく乃てく他者名をよきしなり

上包は題書
 あは園乃

く下の折

他者名と

但畧儀なり

不刺書

青吉原重
 五疊

平家吉

又鳥子よてき。杉原亦て。短冊三折の寸法よりたらく
 短冊ふそく題と書ゆあり

書上方より題を

せりみり

外正家出題

よきあり

私題

寄祝

何月何日

宗近勸進

父相父そのくし有書よとる

不敬なり。つぎくくあり

詠草書躰

詠草ハ堅詠草本儀なり。料紙ハ杉原を用括べし。ぎ
 折詠草ハ三折四折乃二式あり。大くハ四折を用
 登り。書法ハ堅詠草二行書。折詠草二行七字とる
 べし。或云折詠草ハ二枚かきまふと。一枚ハ草案亦
 用。一枚ハ宗近亦奉り。點を請ふ。宗近各點しとる

懐紙又ハ短冊ニ書スル

折紙一枚を二つ折又六つ折又八つ折

折紙を二重に折

竹不改を

尊鎮

春林の影をみれば 夕陽の影をみれば 夕陽の影をみれば 夕陽の影をみれば	題	名
--	---	---

庭寒草

通符

枯き人の心を まじりて あはれ 我々の心を いふは	題	名
---------------------------------------	---	---

題多き

時を 園の如く 何首 書づく	題	名
-------------------------	---	---

懐紙書躰

題	名
---	---

題	名
---	---

懐紙一一首。懐紙二首。三首。五首。七首。十首。十五首。二十首。三十首。五十首。百首等の書式あり。季同書。上下の区別あり。

女房。沙門。児の書法。ふかき紙。不定。料紙。肉。ハ

引合を用ひ。公宴。ハ。讚岐。摺紙。を引合らる。く

ハ。引合を用ひ。公宴。ハ。讚岐。摺紙。を引合らる。く

ハ。引合を用ひ。公宴。ハ。讚岐。摺紙。を引合らる。く

蘇壽遠祝

秋歌

伊賀守半運

あれのそと人徳

因よりはなつて針せ

城まけし死由

志まら

三十四卷

志まら
四
一

檀紙なま可きま
たら四ひなま
あり。

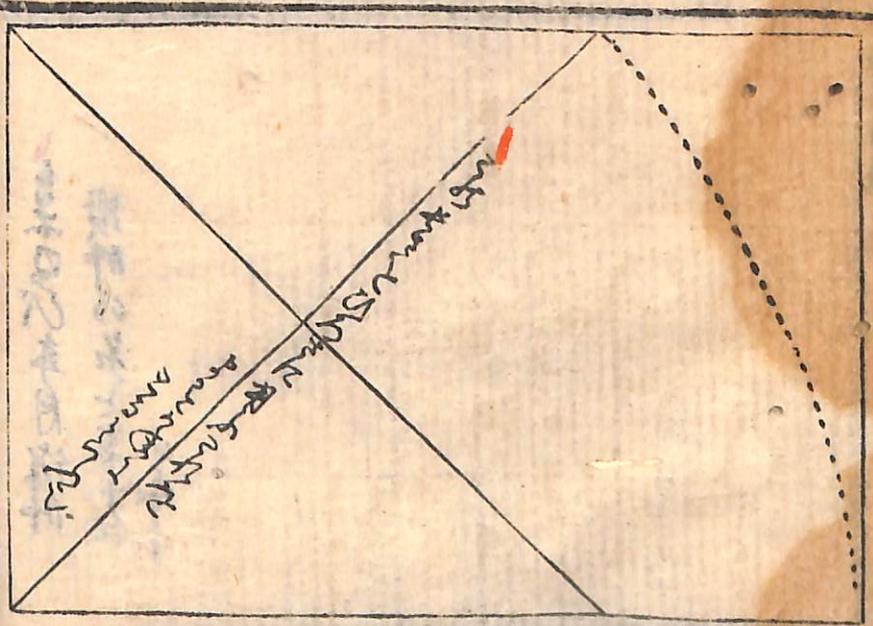
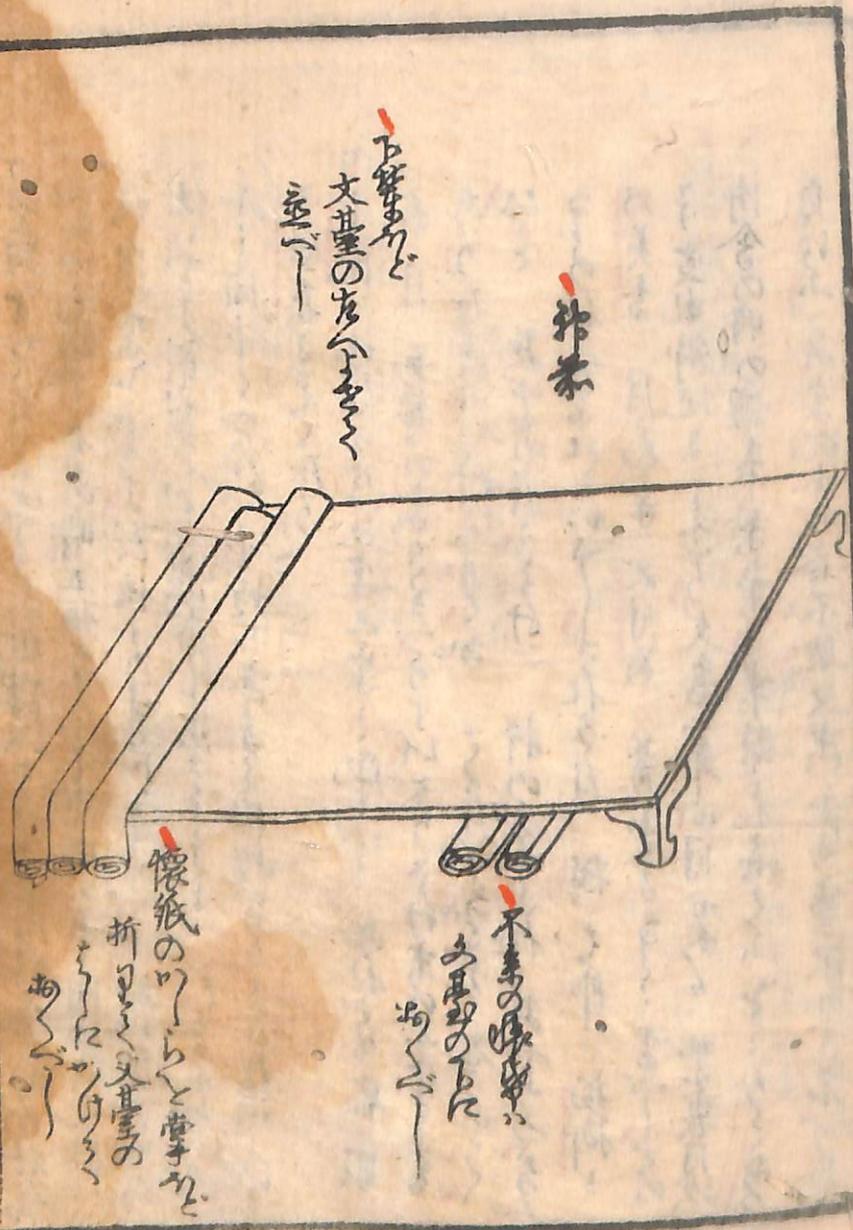
まほび年月講所
横師の名と裏ま

三十一

年月日 何亭

講所何
横師何

三十一



大なる摺紙のせきつん四寸許。ある
 是とてつらつら圓のせきつんを線の
 文庫の板よりなり

線のせきつん一尺二寸五分よりある。大なる
 半寸のすはりの。位階よりある
 せきつんせきつん

懐紙のつらりと掌を
 折りて文庫の
 せきつん

不孝の母
 お母のた
 あつ

季同とやくちの亭子の位階ふよりと云はる式あり。在り
四位中納言と云ふの時五位より侍従の季同ふ及び
院主と云ふと書し。位より季同と云ふべし。或は書し
位よりく貴人より懐席と出さるるあり。はる貴人か
舎と同く心づく。姓の亭子と同姓する。はるはるの
を盛集りてんたり。

字配、九字十字五字三字と配るべし。極はる病家
表月も等の字をさるるべし。さるるけ末の三字は
あり。なるといふさくらさか。さるるやあさるる。あさるる
ひと。あさるるはさるる。料のさるる。あやあさるる
さるる。さるるにさるる。これさるる。梅と那。梅柳
乃黄も。月あさるる。又月あ。背南のさるる。書し。さるる
さるる。室嵐御記よりさるる。文永二年正月廿九日。禁裏月次
御舎の時の懐席系事あり。筆跡をさるる。さるるさるる。さるる
自らふ。さるる字配今日各不^入也。又未^レ三^ノ字ノ事不^レ可^レ不^レ可^レ有

春日同新竹不改色

佳歌

権大納言藤原

うきうきうきうき

と世の春もさびしう傳

那乃あめあめの新緑

花さる

三原ま、依久不^レ就。今日あさるる
呉多^レ抄と云ふさるる。

さるる。依久不^レ就。今日あさるる
呉多^レ抄と云ふさるる。

真の同姓ならん燈を
やぐ位階先進あるは
幸宗あるは實務の
懐依のささるるに

持くと思ひいふ思ふと
かたがし
ゆと念と字と加へ
さすくくさる

○神本法樂ハ幸同と云ふ
位署書あり神号の上關
字あり。その外何れとも
瑞仙の或いある。位官
兼ありゆへに位姓と
さすくくさる。たさる

從位守備員藤朝

從位守兼源朝

原朝 大は朝 平朝

さくあまー

位署書式ハ官位相為
小字くおあり略してい
おあり官位となく位署
官卑々ハ位守官
とさす。官守ハ位卑ハ

初春同詠祝言

兼等

中書大夫實衡

いくと代り思ふあり

如ふ庭乃相殺し

緑哉ささる春花

約と念

元日侍材本影前同詠花

和次

侍從從位兼源守源朝清

春日侍天滿宮影前同詠梅

多年友伴詠

出羽守從位藤朝之

官位相當

右近衛將從四位下	右少將正五位下	右衛門佐從五位上	大膳	右京大夫	修理大夫	民部大輔	中務大輔正五位上	大和河内伊勢武藏下總近江陸奥越前播磨肥後
左衛門督	彈正少弼	左兵衛佐	刑部大輔	高内大輔	治部大輔	兵部大輔	中務大輔	阿波讚岐伊與筑前筑後肥前鹿耳前
右兵衛督	式部大輔	左兵衛佐	左衛門督	主稅兵庫	内藏木二	大學頭	大學頭	美作備前備中備後安藝周防紀伊
大膳大夫	大藏大輔	左衛門督	左衛門佐	主計内匠	越中越後丹波但馬因幡伯耆出雲	阿波讚岐伊與筑前筑後肥前鹿耳前	阿波讚岐伊與筑前筑後肥前鹿耳前	美作備前備中備後安藝周防紀伊
右衛門督	式部大輔	左衛門佐	左衛門佐	山城	美濃下野信乃出羽加賀	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊
左衛門督	刑部大輔	左衛門佐	左衛門佐	山城	尾張三河遠江駿河	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊
右衛門督	式部大輔	左衛門佐	左衛門佐	上野	常陸介	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊
左衛門督	刑部大輔	左衛門佐	左衛門佐	上野	常陸介	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊
右衛門督	式部大輔	左衛門佐	左衛門佐	上野	常陸介	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊
左衛門督	刑部大輔	左衛門佐	左衛門佐	上野	常陸介	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊	美作備前備中備後安藝周防紀伊

官行位とわいする。あふしうはさの官位おる事あり。ばら
 まの官をさるる位とあらはくする。

元日 八月上巳
 端午 五月五日
 佳節 八日月とまゝ

秋歌詠月光無限

元日詠試書
 私歌

私歌

平時房

星夕十夜歌
 ああ

星夕同詠牛女言志

私歌

源貞辰

或は十夜歌を
 秋夕とルカク
 又十夜歌と打あ
 かくもくろく

佛寺遊覧の懐紙ハ

外系より拾得する。

關字より位置をきりて

幸岡ハ今九の入り

又僅佛日

涅槃の西行上人忌日

臨時ふくむ

あふ。

冬日遊清光院詠梅花

和歌

石上清岡

秋日遊海禪寺同詠紅葉

秋深歌

中尾親和

幸岡とてある。たゞは幸岡とて

春日詠水不紫久

和歌

兵部卿幸仁親王

秋まの同家とて終るん
あふる時、之を以て秋まの上り
この格をとり、取存す。

春日同詠水不紫久

和歌

右大臣藤基親

この国華をあらわす園とて比喩園をけしむは妙なり

詠梅交托等

信賴

九念信賴

花を心算ありはあ

深きよきしむも

わづらふをえり

ねりあ

書捨とのふ落れあま
懐きあり。我にありし。
又ハ下のふくもあま。
まねる武あるたあま。
ちつふハそのま。
本まま不存もあまの
あま。

或は園華のふき園をいふ言のり
この下草ふをむりてく

この草も持人時くはらう
今主位甲くも折草
まの例はあま

詠梅交托等

批歌

信賴

馬春

思新樹

とら乃色やみか
之那成つれり
まの采をいやくら
かまの地

○僧徒、季同と書ふは、俗人の懐紙と一ひは、まはるる
ゆゑなり。言位の常小連るるといふは、斟酌にあらず。あつちの
たゞ、傍欄小進むも言とつく事あり。又信長志願の懐紙
を、まゝくゝるゝ。

秋月、薄霧、秋歌

意田

秋は、秋月とあらを
はくちまや、いふともう
ぬゝと、いふもあら

秋、花、秋歌

菟宮

字あり、と記すは、あ
まは、あま、いふ、あ
ま、いふ、あ、あ、あ
あ、あ、あ、あ、あ、あ

秋、曉、神樂

秋歌

沙門、光、真

か、み、く、君、曇、り、か
ま、を、照、と、其、ひ、ら
ま、も、志、る、一、思、ふ、

布古衛

撰改後位藤原朝日惠

我后聖恩人穢否遍覃
草木萬方平敷亦再
奏金芝色省下蓬開
瑞折榮太日天氏風傳
盛德洽陽懸月樂長生
微臣杖老侍斯席悅美
今宵雅頌聲

田水蘸識年豐勸農
只在東郊舍耒耜
白髮翁

○女房懐紙ハ望まほしき月ハ名ハ圓のちこまのちかふん
 ちまふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふん
 ちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふん
 ちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふん



あはれいけ

ちかふんちかふん

ちかふんちかふん
 ちかふんちかふん
 ちかふんちかふん
 ちかふんちかふん

女房懐紙ハ望まほしき月ハ名ハ圓のちこまのちかふん
 ちまふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふん
 ちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふんちかふん



ちかふんちかふん

十五

桐子

松風水

香りのりしき

心静め

梅の板

こころを

よらんと

こころを

あなを

こころを

あなを

女房三月懐紙図の

ちりりさきさき

まぐろ一紙ふき

あきあき

あきあき

あきあき

女房三月懐紙

和子

こころのやほ

けいふ

あなを

あなを

あなを

あなを

あなを

あなを

あなを

重の色目法規

春

紅薔 表紅 裏薄紅

紅の薄紙 白

紫薫 紫 薄紫

紫の薄紙 白

紅梅 白

柳 梅

山吹 表黄 裏薄黄

つし

夏秋

白花 表白 裏薄白

菊 表白 裏薄白

白菊 白

冬

らるる

紫 白

あなを

三首懐紙
づらりやまの
さし空所
の懐紙の
さし空所
の懐紙の

詠三首とあるらん

とあるらん
の懐紙

冬月三首秋歌

正三位藤原資成

冬を

冬はゆきふり
まのほろけ
いろもほろ

冬雨

ぬれくさ
あまの

夕暮のあけ

二首とあるらん
三首とあるらん

詠五日平みよ

秋歌

行中納言資房

まひ衣つけ
たさくらの
つくとぬら

懐紙

かきま
あはれ
あはれ
あはれ

冬月崇徳院御影堂

詠三首秋歌
各五首

後任行中納言藤原資成

菊

はかしく
花久の
新を

懐紙

かきま
あはれ
あはれ
あはれ

三首懐紙

秋日同詠三首佳歌

権中納言藤原實隆

芙蓉

了月と云くれぬゆきと
いれしははるる乃と云く
のこりありき

情状

のこりありき
やち持りたりひんあ
杖乃くれぬ

懐紙

心事うけけりうまひ
とりうねの歌るも心
あるまなり

詠三首和寄

権中納言實隆

花

花ささくきりりけり
のこりありき
なまこりありき

花下送目

名残さくきりりけり
本さけしはれむら
かきありき

花下送目

あつたのさけしはれむら
あつたのさけしはれむら
けさなり

あつたのさけ

十一

五首 藤原の

三つ 藤原

きり

並發 藤原の 二首
懐紙 二首 定建
二首 二首 二首
七字 二首 二首
一紙 二首 二首
十首 二首 二首
はぐり 二首 二首
きり 二首 二首

詠五首 和歌

正二位 資枝

新嘉

依りひめがけくろくも
そのやまあひのまは
おのゝこはり

橋

さかきくは水の一本
庭はりくもかたりれの
かお架よりあま

松衣道

さかきくは水の一本
庭はりくもかたりれの
かお架よりあま

子音

夕志 けくは水の一本
いもこまくくろくも
と陰 不まらるる

廣か

年々 舞のむらゆり
あつりくもかたりれの
固まらるる

ふきのあき

七首集巻
二首集

秋日園詠七首佳歌

衣冠衛權將藤原基業

七夕月
秋月夜のまはるる
秋の夜のまはるる
元一とあらは

七夕河
をきつこのまはるる
あまの河のまはるる
又きつるらむ

七夕草
つぎつぎのまはるる
秋の草のまはるる
秋の草のまはるる

七夕香

人よりのまはるる
七夕のまはるる
秋のまはるる

七夕衣

秋の衣のまはるる
秋の衣のまはるる
秋の衣のまはるる

七夕別

秋の別れのまはるる
秋の別れのまはるる
秋の別れのまはるる

七夕鏡

秋の鏡のまはるる
秋の鏡のまはるる
秋の鏡のまはるる

七首集

廿

○二字題 三字題 一行 五字 七字 九字 十一字 十三字

尋花

終日またらうとけしとて花を
ぬれぬ也 判の着よも流定後

夕春雨

春風のそよぐ夕暮の
村の志はくのもよとていふ

○四字題ハ二行ふつゝなり

老後

述懐

かゝるを友よれかおいつこ
ひりりりりと花をふらふ

たゞく四字五字の題といふも二行ふつゝなり

五月雨

晴

春風

氷解

梅
五月雨

例として出たはばうらまきん。

緒絶橋

我が心ひいてるを物に白雲の
緒絶の橋を身にいらむら

雪中鶯

はるりりて雪のねらぬは
さけくもあのおのしり

○四字題ハ二行ハ二書ハ一

月夜

哀れいなりすらあるおの
ほろろとてしりしり

○四字句題ハ二行ハ二書ハ一

宮中

月を
あつたおのしりしり

女房の名と表すつくるり

和子

○代々の短冊ハ圖のどく。表ハ他名の名とつくる。裏ハも名の名とつくるり

他者の名

定親書

○發句短冊ハ一行ハ書とす

新樹

紅のよき深なるは書ゆえ 勝仁

○詩とハ卦^イハ短冊のどくとす

初花

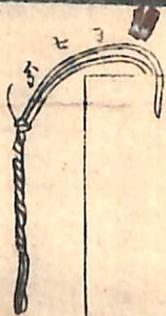
時至園林草木濃賞心賞始洛陽中
愛看雅帯加吟興連夜春風一朶紅長維

○短冊とつくるハ圖のどく裏とあるべし

ハ間指^イハ短冊

年月日

何亭



水引^イと短冊

と八雲御抄の事。六月と賞院せらるるは、
御下

の事を記ししあるが

住持の時、後藤氏
の所と云ふ事なり

不系乃人好勝感の、又甚た下は、
ありしが。清輔朝臣の説とく、八雲御抄小載ら
若障りありと。不系者ハ一紙と云とく、封と
を上の或封。或ハ片名なりと云

御書雜疾の情、
少後殿云、定之、
乃上手有りの、小倉乃山、
御下

御下、
御下

御下

短冊書よ。上白下白は類よ。文字並べるのこころは
こゝ。和歌物語ふらふらと。また建院宮 建院宮
持明院基孝卿との短冊よ。

不達意

年廻りもはたあつたか
たつこもたつたか
たつこもたつたか

旅意

旅意
旅意
旅意

右好ごころのこころは類よ。文字並べるのこころは
事少くあらふらふらと

秋袋の袋は尾院は清和宮よ。またあつたか

秋袋の袋は尾院は清和宮よ。またあつたか

秋袋の袋は尾院は清和宮よ。またあつたか

秋袋の袋は尾院は清和宮よ。またあつたか



和歌物語の箱
和歌物語の箱
和歌物語の箱



和歌物語の箱
和歌物語の箱
和歌物語の箱

子老の伝

定公の御書に於ては、
かきおぼはる。關字と云ふは、

筆頂乃宮保田川御遊乃時、高田のら、
まらら、所説礼か、まらら、まらら、

そり社なると、あはれ、
人とも、まらら、まらら、

永正四年十月一日の條より

自濃、古、基音、状、

也、有、歌

心、あ、好、君、り、

あ、は、ま、た、ま、ひ、

彼、狀、云、歌、關、字、平、也、

月、照、和、と、云、題、ま、く、

は、く、乃、本、

君、哉、と、を、又、山、

相、を、月、乃、色、

と、か、行、此、外、不、見、

若、つ、自、毫、の、

安、能、定、家、御、乃、

ま、ま、り、う、あ、く、

子老の伝

Main body of handwritten text on the top page, including the characters '國' and '表'.

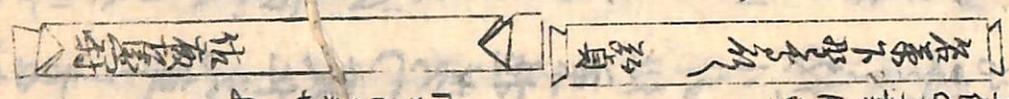
Table with three columns and two rows. The top row contains the characters '信' and '國'. The bottom row contains '信' and '國'.

Table with three columns and two rows. The top row contains the characters '信' and '國'. The bottom row contains '信' and '國'.

Handwritten text below the right table, possibly a label or title.

東

Handwritten text at the top of the bottom page.



Handwritten text inside the right box of the diagram.

Handwritten text inside the left box of the diagram.

Handwritten text below the diagram.

Handwritten text below the diagram, possibly a title or label.

Main body of handwritten text on the bottom page, including the characters '信' and '國'.

金花堂藏板目錄

日本橋南通四丁目

須原屋佐助

源氏物語げんしものたより恋草こいぐさ

五冊

成島公序

此書ハ源氏物語一冊の大巻を初巻の巻名をせりて
小耳抄の如くして巻をせりて一冊あり源氏を讀むに
人必しも此の如く味ひ終ふべき事あり

源氏百人一首

一冊

黒澤翁満大人著

此書ハ定家よしかの此小倉こくら色紙いろし小倉こくら源氏物語の沖うちより百金
撰せんひものくその名な一冊いっさふづをせりて此書このしよのより常
わう小倉こくら抄しよを加かへせりて本ほん書しよと大おほ都みやこのいりある事あり
下したは此この書しよより源氏の大おほ表へ紙しとせりて

唐物語

一册

西行上人作
清水漬屋大撰注

古書六之三 此物年々多き國の王を小やと
せりて書ありてありて人の推有りて
うきふて金銀酒器の類多し世に後世の流あり

萬葉摘落禁

五册

正木千幹大八解

此書を然も地々とも知る如きもの
ありて一より多し其詞を撰むるを
一の巻 天竺の郡 一の巻 地儀の郡
二の巻 天竺の郡 一の巻 地儀の郡
三の巻 天竺の郡 一の巻 地儀の郡
四の巻 天竺の郡 一の巻 地儀の郡
五の巻 天竺の郡 一の巻 地儀の郡

古今選

本居先生輯
村田並樹大八校

此書と云ふ藤大八平と云ふ人の著す
る書也其の著す所を撰んで古今選
と名づくる也其の著す所を撰んで
古今選と名づくる也其の著す所を
撰んで古今選と名づくる也其の著
す所を撰んで古今選と名づくる也

類題和歌構闕

六册

如藤吉風大八撰

古代書八冊と云ふ類題和歌集の題
のわけてなり
藤吉風大八の著す所を撰んで
類題和歌集と名づくる也其の著
す所を撰んで類題和歌集と名づ
くる也其の著す所を撰んで類題
和歌集と名づくる也其の著す所
を撰んで類題和歌集と名づくる也

古今和歌集新校正 二册

賀茂翁考正
鈴屋翁再訂

萬葉摘落葉

五冊

正木千幹大人輯

此書は然も地へ入るとする初巻のてふふあふ葉のはれ
事一やくあはしむをばまらふをまらけし巻と

一の巻 天象の部 二の巻 地儀の部

三の巻 神祇の部 四の巻 人物の部

五の巻 風土の部 六の巻 雑草の部

所収を知らず地味考也本依ふべき書あり

金句集及...

古今選

本居先生輯

村田並樹大人校

此書は本居先生千と君文の在るふて代集の中
てふふあふ葉のはれ事一やくあはしむをばまらふをまらけし巻と
事一やくあはしむをばまらふをまらけし巻と

類題和歌補闕

六冊

加藤古風大人撰

此書は世に知らず類題和歌の題のとわけし事乃
類題和歌の集奇余をより磨く採集也且類の撰定を
考へて直に直に上人のあはれ採集し知れざる
事一やくあはしむをばまらふをまらけし巻と

古今和歌集新校正 二冊

賀茂翁考正

鈴屋翁再訂

うんばやうきん

小本紙色摺

海峯消息 あり用ひらうはらう 漢字より定まる能わぬ
あることより消息はらうきん 紙のちじりこまあるはらう

正誤假字遣

懷中一冊 賀茂李鷹原主輯

此書を古本他日本に於て引出さる假字ありしをきく 詞乃
假字をのりいあて引出さる假字ありしを

假字便覽

一冊 大野廣城先生輯

此書對於假字を備へて假字を辨むるの書なりといふ
よりま音假字もこれ假字を辨むるの書なりといふ
まかひへの音假字もこれ假字を辨むるの書なりといふ
はとまかひへの書なり

言元梯

一冊 大石千引先生著

此の書は詞元之類を考定めらるるなり 辨言の
類のよき用ひらるる假字ありしを辨むるの書なり
假字を辨むる一切を考定めらるる假字を辨むるの書なり
辨言の類のよき用ひらるる假字ありしを辨むるの書なり

假字考

岡田真澄 大人著
鵬齋先生 漢文序
濱臣大人 かあ序

此書の假字の類と並書はらうありしをきく 詞元之類
はらうの類のよき用ひらるる假字ありしを辨むるの書なり
辨言の類のよき用ひらるる假字ありしを辨むるの書なり
はらうの類のよき用ひらるる假字ありしを辨むるの書なり

歌仙繪

一冊

藤原正臣先生著
喜多武清先生撰書

此書は作者の家傳及び奇の知を記すと以て繪を存し
成法先生のものより出たりを要す

元和歸御撰見
集外歌仙

一冊

一名近代歌仙

是の如けきくもうき後水尾の上の撰書より東福門の
少康殿にあさむらじ年寄伝あり終る不強志の撰書と附し

岸本由豆流大人著
七佐日記考證

全二冊

同

此書は石巻藩主とあれきりつるまで於て是の如く記す
を孝吟の條に於て仲所家梨と云ふ所を原田村田とある
有之の條と云ふはあはれきりつる所を原田村田とある
かき校訂しあひしるは目札の案との案し一冊に因りて
多しやく中よりわらへんべあるうし

更科日記

二冊

賀茂真淵翁歌集

小本
二冊

橘千蔭翁歌集

小本
二冊

平香海翁歌集

小本
二冊

楊蔭先生手本類

新百人一首かきま

新三十六歌仙かきま

頃よの貝かきま

古今集かき序

山居帖かきま

源氏ゆきう比かきま

大歌所御歌かきま

真草千字文

萬葉新採百首かきま

吳竹帖

湘雲帖

俗用手簡

同先生用筆大中小色々

松花堂瀧本狸々翁手本

六句帖
氣霽帖

紀貫之朝臣の書

右摺

此書ハ堤中納言兼輔の家族を紀貫之の書く多
稀ハ活らうとて板不ありきう之
仮字を法よく記
うがひたる也

屋代先生書艸書千字文 石摺

援山先生音庭訓往來 二冊

天民先生書赤壁賦并千字文 石摺

龍澤先生行書小學題辭 石摺

新撰諸名家畫譜 全二冊

新影あしと白雲の一助

芭蕉發句小鏡 一冊

雪中菴蓼太翁述
三駱著

付書、發句、案、下、方、の、と、紙、向、を、ら、う、と、ま、て、作、稿、仕、之、の、心、持、う、と、ま、さ、る、と、ま、す、り

瀧本猩々翁三十六歌仙

全一冊

千蔭翁三十六歌仙

全一冊

同玉樟帖

全一冊

同真砂帖

全一冊

古今和歌集

中本
二冊

活用指書本

百人一首かるた

彩を指上中下

其外古今集伊勢物語源自漢字の類かるた
出来合

江戸大節用海内蔵

全二冊

繪本大和錦

初編 三冊
二編 三冊

近代名家画帖

三編 三冊

芭蕉發句小鏡 一冊

雪中菴蓼太翁述
門人 三駱著

付書、發句、案、方、の、と、紙、向、を、と、る、ま、ま、と、て、作、る、仕、立、の、心、持、つ、と、も、お、も、つ、る、出、来、り

瀧本程々翁三十六歌仙 全一冊

千蔭翁三十六歌仙 全一冊

同玉樟帖 全一冊

同真砂帖 全一冊

古今和歌集 中本 三冊

活用例出巻

百人一首かるた

彩之指上中下

其外古今集伊勢物語源氏物語の歌かるた
出来合

江戸大節用海内蔵 全二冊

繪本大和錦

初編 三冊

二編 三冊

三編 三冊

近代名家画帖

三編 三冊

三冊

可菴画藪

一冊

喜多武清著

繪本鷹鏡

初編 二冊

三編 三冊

狂齋先生畫譜

全一冊

英雄畫史

彩色摺 一冊

麻疹必用

小本 一冊

付書ハけりりのひさ方と記しるるをあり

史記論文

晋陵吳齊賢評點

全廿五冊

題畫詩類

小本

四冊

菱湖先生校

此書ハ唐已来画圖ニ題シタル詩作ハ千九百餘首類ヲ分チ尤廣ク集録シタル懐中シテ席上ニ便ナル書ナリ

賢乎已

初編 一冊

淀橋井元三無為著

此書ハ雅トナク俗トナク 珍說奇談見ルニ任セ 聞ニ隨ヒ漢文ニ書記シタルナレバ卷ヲ開テ倦コトヲ知ラザル書ナリ

往園遺文

全二冊

鈴木光尚先生輯

可菴画藪

一冊

喜多武清筆

繪本鷹鏡

初編 二冊

三編 三冊

狂齋先生畫譜

全一冊

英雄畫史

彩色摺 一冊

麻疹必用

小本 一冊

付書はけいりくのふ南方を記ししるをきり

晋陵吳齋賢評點

全廿五冊

史記論文

題畫詩類 クワレル井

小本

四冊

菱湖先生校

此書ハ唐已来画圖ニ題シタル詩作ハ千九百餘首類ヲ分チ充廣ク集録シタル懐中シテ席上ニ便ナル書ナリ

賢乎已

初編 一冊

淀橋井元三無為著

此書ハ雅トナク俗トナク 珣說奇談見ルニ任セ 聞ニ隨ヒ漢文ニ書記シタルナレバ卷ヲ開テ倦コトヲ知ラザル書ナリ

往園遺文

全二冊

鈴木光尚先生輯

甲冑圖式

二册 掌中本 同 著

此書ハ武林法量ニ編ニシテ甲冑ノ圖ヲツマビラカニス

弓箭圖式

一册 同 著

此書ハ先生著ハス處ノ武林法量中弓箭ノ一節ヲ
武家方カラス見玉フベキ書ナリ

單騎要略

五册 村井昌弘先生編輯

此書ハ甲冑ノ着用故實禪觀衣等付頭盛緒
擲ル處ノ鎗刀器械 至令テ其故實ヲ明カニシ一騎前
盡セリ武家方ハサナリ有職ノ學シ玉フ人ハ必坐右ニ置
才村井先生ハ神武地精武學先入等ノ作者ニシテ其名高シ

校正 鍛石銘早見出

尾關永富大人撰寸珍 上下合本二册

此書ハ大寶中ノ天國ヲ始トシテ今ノ世ニ至ルマデ千餘年
ノ間鍛冶ノ銘ヲ輯録シ殆一萬三百六十餘工ニイタル
古刀七十六百八十餘如 此多銘ヲ集シハ末世ニナキ也方々
新刀二千六百八十餘ナラズ見出ニ速クランカタ銘ノ頭字ヲいろは分ニナシ
長銘二字銘ハサナリ年号彫リシホドノモハ其年号
ヲ頭シ年号ナキモ其時代ヲ考ヘ年紀ヲ施シ父子
兄弟子弟ヲ紀シ且梵字ハ治工ノ信心ノ歛スル處ナレバ
是等ヲ頭シ亦甲冑ハ我身ヲ護ル第一ノ要具ナレバ
卷末ニ妙珍家早乙如家等ノ家系并ニ鑑定ノ次第
ヲ附録ス御武家方ハ云モサナリ武器商ノ家々モ片
時モ坐右ヲハナサレザル珍寶ノ書ナリ

古刀 新刀 目利早手引

同撰

兩面摺

此書ハ及紋ノ掟又ハ時價或ハ切レ物并様ノ下ト顯シ
初學ノ便リニ上ナキ珍書ナリ

古刀 新刀 相撲取組

同撰

同

古刀 新刀 正真便覽

同撰

折本

此書ハ古刀新刀ヲ銘中心銘ハ云々及及紋鈍ニ至ルマテ正真ノ
儘ヲ寫セシモノナレバ此圖ヲ見覺ル時ハ正作ヲ見テ空所ニ夫レノ
作ト知ル一而添ノ人ニ逢ガトシ又及紋ハ圓形ヨリ出ルラ
圖ヲ以テ頭シ且疵ノ用捨或ハ目利會ノシヤウ又ハ當同前并
實ニ珍書ナリ

掌中 寶刀銘鑒

一冊

巨槓園輯

此書ハ先ニ銘盡數多アリトイハレ其ト事替リ當 同前
專兩作一傳ハ次第珍敷作人其外吉野年号打作人
又文中心銘廣袂帽子ノ箇條此煮鷓同造リノ様子林字
并彫物ノ次第鑒定會ノ札答ヘヨリ致シ鍛冶ノ官名作人
位列鍛冶ノ系圖并名寄等ニ至ルマテ委ニク辨シ難キ圖
ヲ出シ疑敷事ハ載ズ奇大ノ珍書ナリ

武家用文章

一冊

此書ハ武家方ノ久季ノ用向ノ切紙ヨリナリト云テ初ニ
居ニ結杖裏白物ヲ結納代ノ目録ハ然ルモ巨細ノ
あり一載ノ小ヨリテいさぐつノ遠ハありとも大クこの
杖杖ありてさるるあり

歷代帝王承統譜

折本

紀藩春川先生校閱

此書ハ唐虞以來清ノ道光帝ニイタルヲスル漢土歷代承統ノ主ヲ系譜ニ作りテ歴史ヲヨムモノニ使リス

草聖彙辨

八冊

清朱迦陵先生纂辨
皇國水根文忠先生校字

漢土ニテ歷代ノ草法ヲ集メタル書數多ク中ニ此編精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニオサメ出セリ始メニ畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ檢字アリ此ヨリテ字ヲ索ムシ第八卷ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ビ玉フ君子珍ヒヤンバアルベカラザル書ナリ

明季遺聞

四冊

清鄒錫山先生著

此書、清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末季自成ノ乱ノ倡ニ本未ニリ清ノ閩廣ヲ平定スル事ニイタル國性爺ノ事實等ノ書ニ詳ナリ

皇和魚譜

二卷

栗本先生纂

此書一三河魚類凡五十二種ノ圖說ヲアケ卷ニハ河海通在ノ魚類二十三種ノ圖說ヲアケラレタリ海魚ノ類近刻ニ出ス魚類性味良毒ノ辨シガ多混シヤクモ此書ヲヨミタハ分明トルシ

爲己執記

一冊

羽佐間芝瓢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ爲ニシルワザト心得ズ己カ爲ニスルノ仁道也ト心懸ルガ肝要タルヲ辨シタル書ナリ

歷代帝王承統譜

折本 冊

紀藩春川先生校閱

此書ハ唐虞以來清ノ道光帝ニイタルテステ漢土歷代承統ノ主ヲ系譜ニ作りテ歴史ヲヨムモノニ使リス

草聖彙辨

八冊

清朱迦陵先生摹辨 皇國水根文峯先生校字

漢土ニテ歷代ノ草法ヲ集メタル書數多ク中ニ此編精善ナルニ如ハナシ我朝兼明親王ノ書ヲモ此編ニオサメ出セリ始メニ畫ヨリ三十畫ニ至ルマデノ檢字アリ此ヨリテ字ヲ索ムシ第八卷ニ草法母觀ヲ附シタリ草書ヲ學ヒ玉フ君子診ヒマンバアルベカラザル書ナリ

明季遺聞

四冊

清鄒錫山先生著

此書ハ清ノ鄒錫山ノ手輯ニシテ明末季自成ノ乱ヲ倡シ本末ニ清ノ閩廣ヲ平定スル事ニイタル國性命ノ事實等ノ書ニ詳ナリ

皇和魚譜

二卷

栗本先生集

此書一三河魚類凡五十一種ノ圖說ヲアゲ卷三ハ河海通在ノ魚類一十三種ノ圖說ヲアケタリ海魚ノ類近刻ニ出ス魚類性味良毒ノ辨シカ多混シヤズモノ此書ヲヨミタハ分明トシ

爲己執記

一冊

羽佐間芝瓢先生著

此書ハ醫道ハ人ノ爲ニスルヲ得心得マ己カ爲ニスルノ仁道也ト心懸ルガ肝要タルヲ辨シタル書ナリ

五百崎虫の評判 一册

観世織部太夫校正 諷本百二十番 全十册 同外 近刻

小説土平傳 一册 江戸町鑑 二册 江戸町づくし 一册

袖珍名鑑 一枚 早引二體節用集大成 全册

大寶百人一首紅葉錦 全册 桃花百人一首 全

錦百人一首 書後山流彩色入 全 萬寶古状搦 全

百瀬高貴往來 全 同みちと名所往來 全

柳家流高貴往來 全 実活教童子教 全

廣益諸家人名録

初編 二册
二編 一册
三編 一册

此書ハ文政年間より當時よりあるを世り
ゆゑに儒宗國學家兵法家書畫家有職家
義利家堅定家文雅他家相家榮事
軍番小の彰姓氏別号位和會日ホホ
之ハ一々考へてこれを法名録一たり
入學者ハ揮毫堅定を法一以て
便利なる書あり

臣府たごもえも合つりては皇族之料理の
仕ごと又廣く湯の事也一昔水の出ず
便所の素因水の接揚を治の所を打眺
御瘻あてくき時の内らひあ研て瘻
立時の介抱の事もあまをさるる百
平、仮名付まてさる易く出の石位も
そんまはく出牙やまも礼法より
規矩をまらばして便利る事世末の孫也

勸善忠義傳

全二冊

け書ハ皇曆の順忠義者と名よす一内田を
右吉忠の五代小及ふ事とあはれとあはれ
よて慈愍ふくは仕のりまをよその徳に
上の心考ふは頼りし若もけ門より出ると
通俗文に記さる事あり

天皇承統譜

折本 春川源先生 撰
一冊 謙齋豊原先生 著

此書ハ神代ヨリ 神武天皇以来
今上皇帝ニ至ルマデスベテ 皇朝歴代ヲ系譜ニ
作リテ國史等ヲヨムモノニ便リス

竹

竹

國立大學
 大
 6255
 受人
 36 3. 14



竹

竹

竹

國立大學
大
6255
受人
36 3. 14



